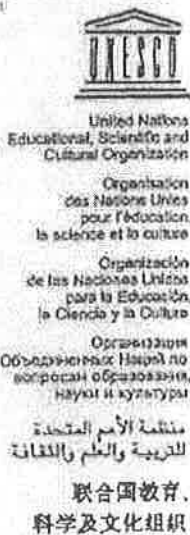


これまでの経緯

月日	内 容
6月9日	GGN現地審査1日目、審査員から「1万を超える署名がユネスコ事務局長あてに届いている。我々は専門外なので判断できないが、ユネスコ事務局長あてに手紙を出すように」と言われ、署名の写しを見せられる。
11日	GGN現地審査最終日、3日間のまとめとしての意見交換会を実施。意見交換会では、いるか追い込み漁以外の今回の指摘事項とほぼ同じような内容の課題を挙げられた（注・審査では認定される地域でも必ず「改善すべき点」を挙げるのが通例。現地審査員はよりよいジオパークに導くためにアドバイスをする役割であるため）。 意見交換会終了直後、「初日に話したこと（ユネスコ事務局長への手紙）について、アクションをなるべく早く取るように」と助言。「我々は個人的にはその作業をしてもらうことを申し訳なく思う」とも。 ⇒ 現地審査員も通常、審査で取り扱うようなものでないと考えている模様。「検討の後、提出する」と約束。
7月3日	漁協、県等と調整し、ユネスコのイリーナ・ボコバ事務局長あてに会長親書を送付。主な主張は以下のとおり。 ①いるか食は日本古来の文化だが、いとう漁協では2005年から現在まで10年あまり漁を実施していない。昨年9月には「食用」としての漁を今後一切行わないという意味を漁協が確認。 ②しかし、漁協は伝統的な文化としての漁法を次世代に継承したいという強い思いがある。一方で動物愛護の観点から反対する声も聞く。いるか漁に対してどのような意見も排除すべきでない。 ③有形・無形の文化とその多様性の継承もユネスコの役割であり、ジオパークは地形地質をベースとして地球環境や地域社会の歴史や文化などとのつながりを理解する活動であるので、どのような考えも否定せずに、地域が長い時間をかけて議論していく課題であるべき。
8月14日	ユネスコ自然科学担当事務局長補のフラビア・シュレーゲル氏名義で、手紙を受諾した旨と、ジオパークはGGNがやっていることなので、GGNへ転送した、という内容の返答。
9月19日	アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムのフェアウェルパーティー（鳥取市）にて、ユネスコ地球科学減災課長のマッキーバー氏が新規加盟地域を発表。伊豆半島は見送り。 GGNビューローから、直接「保留」である旨が告げられた。「地質遺産の国際的価値、いるか追い込み漁の問題に関して、判断するに至らなかった。追加情報を提出してほしい。詳細は文章で後日連絡する」とのこと。
21日	マッキーバー氏とニコラス・ゾウロスGGN会長宛にメールで詳細を照会
10月5日	マッキーバー氏から署名入り文章が届く 9月19日に伝えられた2項目に加え、8項目の追加指摘事項を記載。提出期日や提出方法についてはまったく記載なし。（書面上は1日付）
6日	事務局担当者名で、指摘事項について不明瞭な点、提出期日等を照会
19日	会長名で、指摘事項について不明瞭な点、提出期日等を改めて照会

資料 1

20日	<p>マッキーバー氏から、2度目の文章が届く</p> <p>○指摘事項についての補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地質的な価値は今まで申請に関わらない地球科学者の声明が必要。 ・いるか漁については、1) 漁の頻度 2) 将来的な展望、3) ジオパークとの関係 (パートナーが関わらないことの保証) を聞きたい。 <p>○今後の手続きについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ正式事業化された場合、新制度となり、申請やり直しになる。 ・これ以外の情報は正式事業化以降でないと言言はできない。
11月3日 -18日	<p>ユネスコ総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11日 ジオパークの正式事業化について、科学委員会を通過。 ・17日に総会にて正式事業化に関する議案が可決された。



Natural Sciences Sector
Division of Ecological and Earth Sciences

資料 2

Izu Peninsula Geopark Promotion Council,
President Hiromi Tsukuda
2-1-1 Ohara,
Ito 414-8655
Shizuoka
Japan

1 October 2015

REF: EES/EGR/GGN/01102015C

Dear Aspiring Geopark team,

We would like to inform you that the Global Geoparks Network Bureau, at its meeting on 18 September 2015 in San'in Kaigan Global Geopark, Japan, has discussed the evaluation of your application for membership of the Global Geoparks Network (GGN). At this stage, the GGN Bureau thinks that the Izu Peninsula Aspiring Geopark should improve some specific aspects as mentioned below.

Recommendations:

The first key issue relates to the justification of the international value of the geological heritage of the Aspiring Geopark. Independent verification of the international value should be provided.

Secondly, further clarification is needed regarding the issue of the dolphin-drive practices that are still permitted in the area and a reassurance that the partners or the Aspiring Geopark will refrain from this practice.

Additional recommendations are as follows: